

◇焼夷彈の火焔を一度くぐつた第九號を會員諸氏にお贈りする。執筆者にとつてはかけがへのない貴重な之だけの原稿が幸ひ金庫内に保存されてゐたため、何等の損傷を受けずに、かうしてもう一度印刷にかけることの出来たことは有難いと云ふほかにない。しかし不幸にも從來の印刷所は災害を蒙つたため、新しい印刷所に依頼することとなつたのであるが、その組版印刷發行と云ふ段取りが益々苦しくなることは御想像以上である。

◇その意味でこの種の雑誌が何日まで刊行し得るかは不明であり、當然東京の空襲激化と共に一時的には中止に至るものと考へられる。次號が讀者諸氏のお手許に達する時は日本がどんな状態にあるかさへ見當がつかない。

◇とに角本號もかく取り揃へた。研究対象としては古いものが多く、戦時下の科學研究を科學史的觀點からつかまへようと云ふ編輯方針にも拘らず、左様の論文が中々出来上らない。之はいたし方のな

いことで、事實あらゆる科學研究者が動員し盡されてゐる現在、之等の人々への研究をまとめることさへお願ひいたしかねる有様なのである。

たゞ木村駿吉博士の海軍に於ける無線電信機工夫の苦心談を海軍當局の御了解を得て資料として掲載したことは唯一の誇りでもある。之は會員杉田元宜氏の御好意によるものである。恐らくこの様な苦心談は現在同様に苦心慘愴してゐられる研究者のよき指針ともなり、獎勵ともなるであらう。何年か後、現在の研究者達が木村博士と同様な懐古談を語り、我が優秀なる獨創的兵器の發明過程を述べる時が来るであらう。

◇やうやく會員名簿を整理して、本號に附することが出来た。自然科學の各分野に亘るばかりでなく其他の方面の學者をさへ含めてゐる本會の名簿は、ある意味では我國文化の縮圖であると共にまた一方極めて便利なものであらう。

昭和二十年五月二十五日印刷  
昭和二十年五月二十八日發行 (第九號)

定價 壹圓 合計 壹圓參錢  
特別行爲税 參錢 (送料二十錢)  
相當額 參錢

日本科學史學會

發行所 代表者 桑 木 城 雄

印刷者 (東京) 根 本 力 三

印刷所 大日本印刷株式會社

發行所 日本科學史學會

日本出版會社番號三二二一五番  
發行所東京一七五三一六番

一冊 壹圓 (特別行爲税相當額並)  
四冊 (送料は別に申受く)

發賣所 岩 波 書 店

東京 都田目ツ橋二丁目三番地  
電話九百三三  
一八九七、一八八八  
〇二二番小賣部専用  
振替口座東京二六二四〇番

日本出版會社番號  
三四〇〇九〇番  
承認番號 五九號

配給元 東京都田目ツ橋二丁目三番地 日本出版配給統制株式會社  
漢字部二九九